

# STJ-AFOの使用経験

佐々木 重夫、平見 啓介、尾崎 和仁、  
休庭 健

[川村義肢株式会社]

鈴木 恒彦

[ボバース記念病院]

---

距骨下関節付後方支柱 AFO (Subtalar Joint-AFO 以下STJ-AFO)は1978年旧東ドイツのボルカルトが述べている矯正メカニズムを応用したものであり、日本義肢装具学会学術大会でもその報告がされている。内反足・外反足変形の矯正には足部の内転・外転、踵骨の内反・外反、足関節の底屈・背屈の3つの動きをコントロールする必要があり、STJ-AFOを装着することで困難とされてきた踵骨下関節の矯正が見られたことはすでに報告されているとおりである。しかし、使用を続けるうちにJoint部分が破損するというケースが生じた。そこで我々は1997年より継手部分の構造を変更し、さらに長時間装着を可能とすることでその矯正効果を持続させることが出来るよう改良を加え、臨床を重ねてきたので報告する。